

## 「皆既・金環日食での失敗経験を生かす」

東亜天文学会・阪神天文同好会 岡村 修

日食遠征時には旅が通常のツアーと異なるのと日食時の感激から撮影時にミスをおかしてしまうことがよくある。今までの日食遠征で経験した失敗事例をもとに、その対策について考える。

1979年～2010年 皆既 7回晴れ 2回曇り雨(78%)、金環 2回晴れ 1回曇り雨(67%)、皆既・金環合計 9回晴れ 3回曇り雨(75%)

### 1.旅行編

移動中パスポートを落とす。幸いに添乗員に拾われる。→パスポートは手元に！

油断してサラダでお腹をこわす →日食前は特に生もの・水に注意！

肉食べ過ぎて痛風に → 健康管理には注意。

ツアーが飛行機の都合でばらばらに → 自立して動けるよう多少は喋られるように

乗り継ぎに危うく失敗するところであった → アメリカはトランジットであっても入国をしなければならず予想外に時間がかかる。その上に注意人物と紛らわしい名前の場合さらに時間を要する。次の飛行機のチェックインは待たずに早めに。ゆとりが無い時は事前に止められた時の対応を添乗員などと打ち合わせしておく。

チェコで寝坊。一人部屋は注意！ → 自信なければ他の人に朝食を誘ってもらう。

空港での荷物預け時に荷物空けられる → 特に日食後の大事なメモカードは手元に置く

貴重品入りのバッグがレストランで紛失したが外国人のバスで発見！ → 貴重品は油断せず手元から離さない。混成ツアーでは特に注意する

食糧・テント・毛布不足 → 砂漠ではサバイバル。ないと困る品物は自力でも確保(暖かいアルミ保温シート、非常食)

目的地にたどり着くのに苦勞 → 政情不安の国はそれなりの覚悟を

シンガポールのホテルで現金紛失 → 部屋の中も外だと思ふこと

### 2.撮影編

重たい望遠レンズ(600mm、F5.6)のピントリングが動いてピンボケに → パーマセルテープで固定する。ピントは再確認

予想以上に皆既時に暗くなって液晶見られず → 予測できないので懐中電灯などの用意をお忘れなく

知人(日食の大ベテラン)のカメラ(F4)が撮影不能に・・・ → できれば予備のカメラも持参。あきらめが肝心か

雨降っていたが情景だけでも撮っていればよかった → どのような状況でも撮影する

ビデオ 自動露出 → 露出過剰 余裕があればマニュアルで。これからはデジタル一眼か

レンズを持参せずせっかく砂漠での星空を撮影できず → 新月前後であり重くともレンズは1本は必携

砂嵐 → 大きなビニール袋など必携(スクールなどにも有効)

写真のメモリ上書き → 復活ソフトで大半は復活。PCなどに毎日バックアップするようにする

皆既中、魚眼レンズでも意外と星は写る → インターバルで撮影すると動画にもなる。撮影可能枚数に注意(リモコンの機能制限)

前日は強風に大雨で場所取りせずモアイの前を陣取りできず(雨にもかかわらず三脚を立てているグループあり) → どうしても構図を狙いたければ準備を

知人の三脚がスーツケースから出すと壊れていた → 壊れてはならないもののパッキングは念には念を

赤道儀のセッティングには偏角を調べる必要 → サイトで調べるor旅行社に依頼して事前に偏角を調べる。GPSあれば真北はわかる

欲張ってカメラ、ビデオを持っていく → 本番はあわてるのでシミュレーション、リハーサルで現実に可能かやってみる。

コンバージョンレンズ使用、ズームレンズ撮影時のゴースト → テスト撮影で発生を確認して使用の有無を検討

NDフィルターを2枚重ねたがあわてて1枚しかはずさず結局、コロナが撮影できず、時間も浪費 → なるべくシンプルに！

### 3.日食観望編

皆既前に濃いサングラスをしたまま皆既に突入。第3接触後に周りに指摘される！ → ダイヤモンド前には忘れずに外すように

苦勞して予定場所に行ったが曇り／雨。宿泊ホテルでは見えた。 → よくある話(1991年、2008年)で運次第

家族の目が双眼鏡で危なく目玉焼きに → 第3接触時は危険なので周りが気をつけて早めに外す必要あり

国境付近、軍事区域内では移動は不可と思わねばならない → 事前に条件を情報収集する。できれば機動的に行動できる場所が望ましい